

小児科外来で採血を受ける幼児への説明にオノマトペを用いた介入の有効性の検証

石舘 美弥子¹⁾ 山下 麻実²⁾ いとう たけひこ³⁾

1) 常葉大学健康科学部 2) 横浜創英大学看護学部 3) 和光大学現代人間学部

目的

採血は多くの子どもにとって大変な苦痛を伴う処置である。小児科で幼児に対して無意識ながら頻りに用いるオノマトペ(擬音語・擬態語)は言語能力の未熟な幼児にとって、感性的に理解できることばといえる。本研究の目的は、採血を受ける幼児に対してオノマトペを用いた説明を行い、その有効性を検証することである。

【用語の操作的定義】

本研究におけるオノマトペとは、小児医療現場において対幼児に使用していることばであり、実際に存在する音に真似ることばとする擬音語や、視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象をことばとする擬態語、および、擬音語・擬態語に類似した形を持つ表現の総称とする。

方法

1. **研究参加者:**小児科外来を受診した3歳から6歳の幼児とその保護者30組。

2. **研究方法:**外来診察順に、オノマトペ群と非オノマトペ群に交互に割り当てる無作為化比較試験とした。幼児が採血前後で感じる痛みの客観的評価として、Merkel, Voepel-Lewis, Shayevitz, & Malviya (1977)のFLACC(Face, Legs, Activity, Cry, Consolability) Behavioral Scaleを用いた。測定ポイントは、先行研究(Movahedi, Rostami, Salsali, Keikhaee, & Moradi, 2006)を参考に、採血前、採血直後、採血5分後の3回を設定した。また、採血後の痛みの主観的評価として、Wong & Baker (1988)のFaces Pain Rating Scaleを採用した(FRS)。採血終了後、子ども自身が感じた痛みの程度を6つの顔の表情から1つ選んでもらった。

3. **分析方法:**Mann-WhitneyのU検定, 2要因分散分析, Bonferoniの多重比較を行なった。統計解析にはSPSS ver.22.0を使用した。有意水準を5%とした。

4. **倫理的配慮:**所属機関の倫理委員会および病院の倫理委員会の承認を得て実施した。対象者に研究目的, 方法, 結果発表について文書で説明し, 同意を得た。研究への自由な参加, 途中中断の権利, 不利益からの保護, プライバシーの保護を保証した。

Table 1. FLACC (Face, Legs, Activity, Cry, Consolability) Behavioral Scale

行動	判定	スコア
表情	・表情の異常なし, または笑顔	0
	・時々顔をゆがめる, しかめっ面をする, 視線が合わない, 関心を示さない	1
	・顔回またはずっと下顎を震わせる, 歯をくいしばる	2
足の動き	・正常な姿勢でいる, リラックスしている	0
	・落ち着かない, じっとしていない, 緊張している	1
	・蹴る, 足を抱え込む	2
活動性	・おとなしく横になっている, 正常な姿勢でいる, 容易に動くことができる	0
	・もだえている, 前後に体を動かす, 緊張している	1
	・反り返る, 硬直, けいれんしている	2
泣き方	・泣いていない(起きているか眠っているかにかかわらず)	0
	・うめき声またはしくしく泣いている, ときどき苦痛を訴える	1
	・泣き続けている, 悲鳴, むせび泣いている, 頻りに苦痛を訴える	2
あやしやすさ	・満足している, リラックスしている	0
	・触れてあげたり, 抱きしめてあげたり, 話しかけることで気を紛らわせ安心する	1
	・あやせない, 苦痛を取り除けない	2

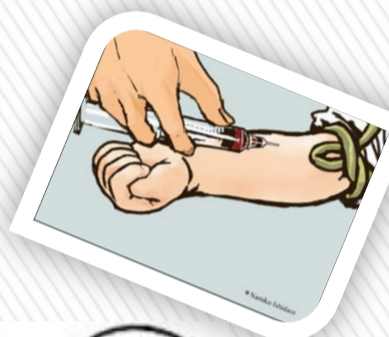
考察

- 幼児の主観的評価では、オノマトペ群は非オノマトペ群より痛みが弱く、有意な傾向が認められた($p=.027$)。
- FLACC Behavioral Scaleにおいて、2要因の分散分析の結果、時間要因の主効果、時間と群間の交互作用に有意な差が認められた($F(2,48)=27.07, p<.001; F(2,48)=6.243, p<.005$)。Bonferoniの多重比較の結果、オノマトペ群では、採血前と採血5分後、採血直後と採血5分後の結果に有意な差が認められた。採血前は不安や恐れの高い傾向が見られたオノマトペ群が、採血5分後に非オノマトペ群より不安や恐れが有意に低下することが明らかとなった。

以上の結果より、オノマトペを用いた説明は幼児の痛みの程度、不安や恐れを軽減するのに有効であることが示唆された。

本研究は文部科研費#24660030の助成を受けて行った研究の一部である。

(連絡)石舘 美弥子 E-mail: mishidate@sz.tokoha-u.ac.jp



結果

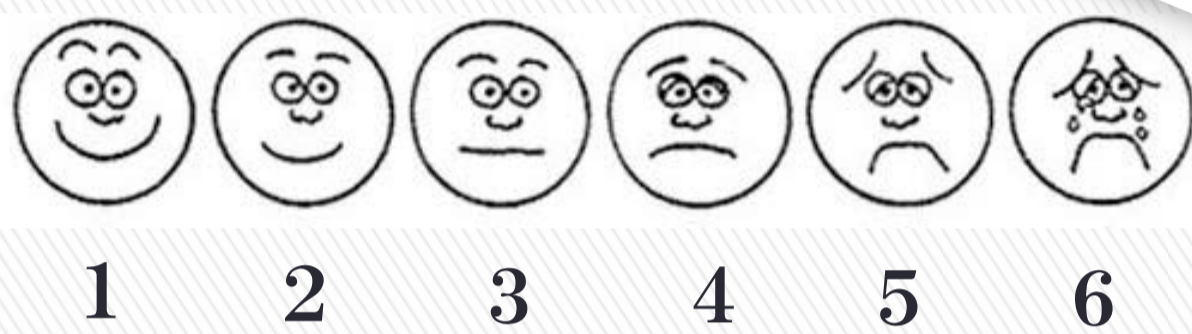


Figure 1 Wong & Baker (1988)のFaces Pain Rating Scale

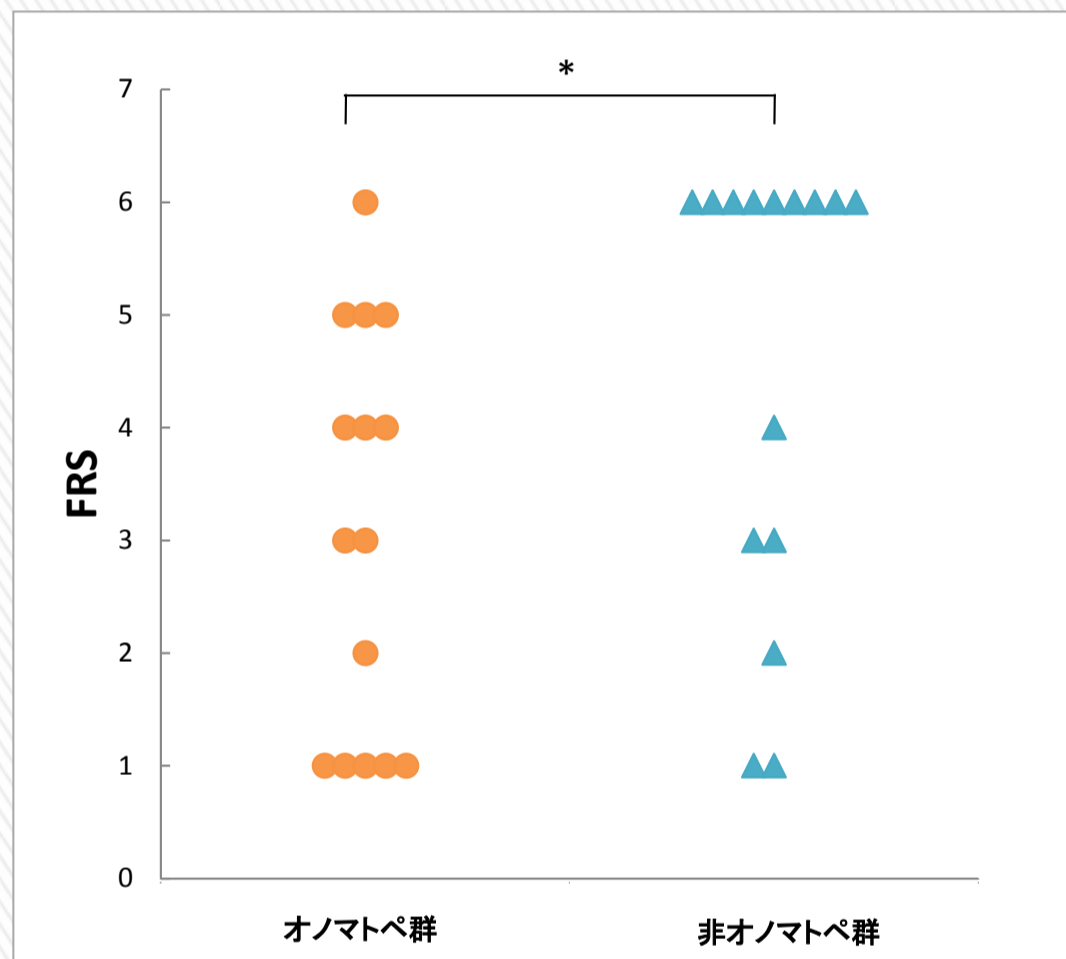


Figure 2 オノマトペ群と非オノマトペ群によるFRSの比較

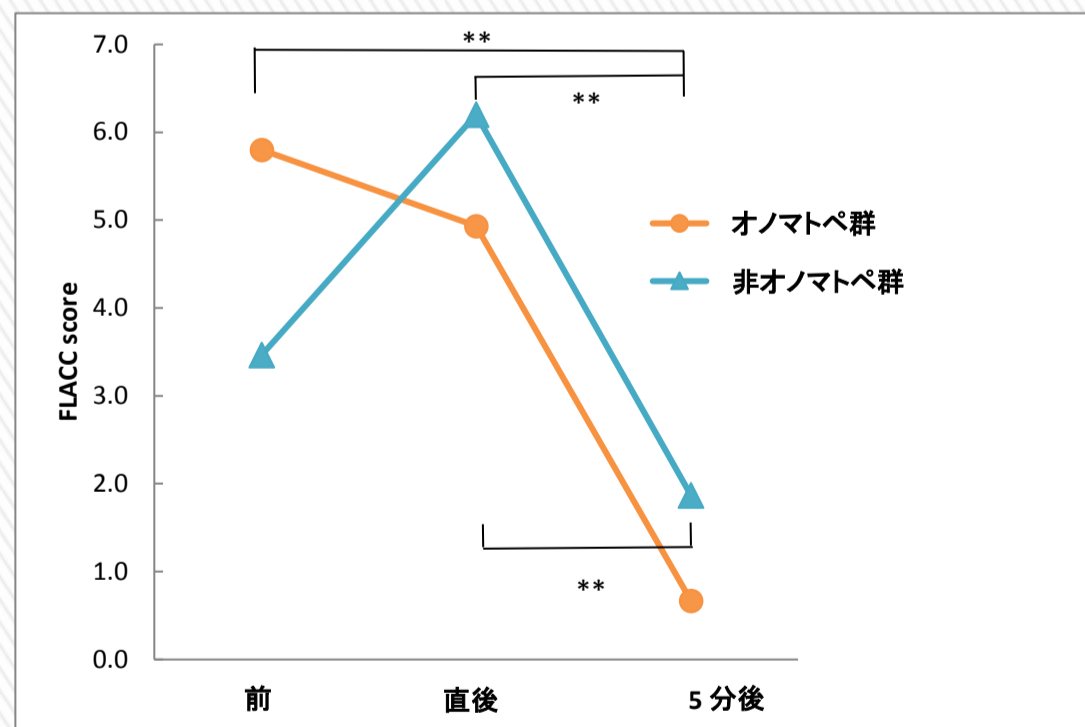


Figure 3. オノマトペ群と非オノマトペ群によるFLACC scoreの比較

** $p<.01, * p<.05$